



京都大学大学院農学研究科
農学原論分野

2018. 2.14

京都大学旧演習林事務室

セミナー @ 共同会議室 15:00-17:00

懇親会 @ ラウンジ 17:30-19:30

言語：英語 (English)

要事前申込 (定員 30 名)

Agroecology now and into the future: On-the-ground realities and the institutionalization of principles

大量生産、大量消費社会に後押しされ、今、農業は、環境負荷の高い工業的で多投入型な生産現場へと急速に変わりつつあります。さらに、農作物が換金商品化したことで、地域に根差したくらしの存続や農家の自立も脅かされています。総合地球環境学研究所実践プロジェクト「持続可能な食農システムを実現するライフワールドの構築—食農体系の転換に向けて」(略称:FEAST)では、持続可能な生産システムへの転換の方向性の一つとして、アグロエコロジーに着目しています。アグロエコロジーは伝統知と科学知を融合し、地域の自然のしくみに倣って、生産性や効率が高く、資源循環型で、病害虫への耐性も強い、生物多様性に富んだ農業生態系を構築しようとする学問です。このセミナーでは、アグロエコロジーの第一人者であるミゲール・アルティエリ氏をお迎えし、アグロエコロジカルな生産の実践についてお話しいただき、日本におけるアグロエコロジーの制度化の可能性を考えます。



Miguel Altieri (ミゲール・アルティエリ)

生態学の理論を用いて、生産性が高く、かつ資源の節約に適した農業システムを研究・設計・維持・評価する学問分野「アグロエコロジー」の提唱者。ラテンアメリカにて、アグロエコロジーの実践を通じた資源に乏しい小規模農家の支援を行っている。カリフォルニア大学名誉教授。

Photo: University of California, Berkeley Web サイトより



Clara Nicholls (クララ・ニコールズ)

コロンビア出身の農学者。害虫を生物学的に制御する生物多様性に富んだ農業生態系の発展に焦点を当てた研究を進める。また、ラテンアメリカにてアグロエコロジーのアプローチを用いた農業の持続可能性向上に向けた活動を幅広く行ってきた。カリフォルニア大学ラテンアメリカ研究学センター講師。

Photo: University of California, Berkeley Web サイトより



Norie Tamura (田村 典江)

総合地球環境学研究所 FEAST プロジェクト上級研究員。農林水産業・農山漁村を主な関心領域とし、調査研究、マーケティング、コンサルティングなどに携わる。研究者とコンサルタント、水産と林業の両方を専門とし、水産資源管理、コモンズ論、林業人材育成を研究テーマとしている。



(司会) Steven McGreevy (スティーブン・マックグリービー)

総合地球環境学研究所 FEAST プロジェクトリーダー。准教授。農業および農村地域の持続可能な開発、活性化に向けた新しい取り組みや、地域コミュニティにおける食の消費と産のやり方の連携について研究をしている。



お申込み・お問合せ

feast@chikyu.ac.jp

FEAST プロジェクト (松岡・小林)

参加を希望される方は、①ご所属

②お名前 ③連絡先メールアドレス

④懇親会の参加 / 不参加 を 2/9

(木) までにお知らせください。



FEAST は、総合地球環境学研究所に拠点を置く研究プロジェクトです。持続可能な地球社会の基盤を支える食と農の新たなあり方を展開することをめざし、実践的な研究を、日本、タイ、プータン、中国にて行っています。
feastproject.org



総合地球環境学研究所 (地球研) は、文科省所管の大学共同利用機関法人人間文化研究機構に所属する研究所です。地球環境問題を「人間」と「自然系」の相互作用の問題としてとらえ、様々な領域において、問題解決に資する研究を進めています。
chikyu.ac.jp

京都大学大学院農学研究科
農学原論分野

近代における農業・農学のあり方について哲学的批判的に省察する分野です。秋津元輝教授のもと、フィールドワークに基づく農業・農村比較や、農業思想、農業・農村言説、環境思想、食と農を結ぶ新しい関係形成を研究手法・テーマとしています。
www.genron.kais.kyoto-u.ac.jp